

## 1-6 英文学

### 研究・教育活動の概要と特色

#### [ 研究活動 ]

英文学研究室は、初代教授土居光知以来、歴史主義的な方法論を基盤とする研究を行ってきた。英文学の領域は 8 世紀頃から現代にまで至る広大なものであるが、当研究室がカバーしているのは、主として 16 世紀のイギリス・ルネサンス期から現代に至るまでの近代英文学である。ジャンルとしては、詩、演劇、18 世紀以降の小説を主として研究してきている。これらを文学史、テーマ史、思想史の中で捉えようとするのが、研究室の伝統となっている歴史主義的な研究である。そこでは一次資料の厳密なテキスト分析に根拠を置くことを第一の原則としており、さらに個々のテキストを歴史的視野の中で位置づけることにより、客観性を高めることに留意している。

一方、1960 年代以来の英米の批評理論の展開についても十分に意識しており、その優れた部分を柔軟に取り入れつつ、新たな研究方法の開拓にも取り組んできている。近年はポストコロニアリズム批評・新歴史主義批評に基づいた研究も行われているが、テキスト分析を重視することにおいては一貫している。

#### [ 教育活動 ]

一学年 10 名を定員とする学部教育においては、英文学の古典に親しみ、同時に英語読解能力を涵養することを目的とした教育が行われている。具体的には 3 年次学生に対して、大学院生が指導者となって英詩読解を行わせる「詩のオリエンテーション」が実施されている。また、卒業研究として、3・4 年次に 10 冊の原書を数回に分けて読み、それに関する試験を行うという形式の「アサインメント」が行われている。これはすでに半世紀以上の続く伝統的な教育方法である。大学院前期課程においては、高等学校教員をめざす大学院生が増加していることも踏まえて、英語読解能力をさらに高めるための授業を中心にしている。大学院後期課程においては、さらなる英語読解能力の向上とともに英作文能力と論文構成力の訓練に重点を置いている。

### 組織

#### 1 教員数 (2011 年 9 月末現在)

教授：1

准教授：2

助教：1

教授：大河内昌

准教授：岩田美喜

准教授：ジェイムズ・ティンク

助教：市橋孝道

## 2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
30	0	3	4	0

## 3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	13	2	0
08	9	2	2
09	7	2	0
10	12	3	0
11	0	0	0
計	41	9	2

\* 2011年度は、9月末までの数字

## 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	2	0	2
08	2	0	2
09	1	0	1
10	1	0	1
11	0	0	0
計	6	0	6

\* 2011年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

Kurt Scheibner、2007 年度、“Robert Browning’s Humor in Selected Themes”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・森本浩一、准教授・岩田美喜

呂 黛、2007 年度、“Love or Death: Women’s Role in Tennyson’s *Idylls of the King*”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・金子義明、准教授・岩田美喜

杉村 泰教、2008 年度、“Reading the Void: A Reconsideration of William Golding’s Fiction”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・金子義明、准教授・岩田美喜、准教授・イーアン・トゥィッディ

小野 美知子、2008 年度、“Nature and Art in Thoreau’s Educational Philosophy”

審査委員：教授・原 英一(主査)、教授・金子義明、准教授・岩田美喜、准教授・イーアン・トゥィッディ

新井英永、2009 年度、“D. H. Lawrence and Critical Theory: A Revaluation of the Later Novels”

審査委員：教授・大河内昌(主査)、教授・森本浩一、准教授・岩田美喜

福士航、2010 年度、“Performing “Other” Identities on the Restoration Stage”

審査委員：教授・大河内昌(主査)、教授・金子義明、准教授・岩田美喜  
准教授・ジェイムズ・ティンク

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	2	6	0	0	8
08	3	2	2	0	7
09	1	2	0	1	4
10	2	7	0	0	9
11	0	0	0	0	0
計	8	17	2	1	28

\* 2011 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	2	7	0	0	9
08	2	3	0	0	5

09	1	2	0	0	3
10	1	2	0	0	3
11	0	0	0	0	0
計	6	17	0	0	23

\* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

Lu Dai, “The Role of Women in Tennyson’s *Idylls of the King*”, 『川内レビュー』第7号、2008年3月。

Scheibner, Kurt, “What Lies at the Heart of ‘Count Gismond’?”, 『川内レビュー』第7号、2008年3月。

Scheibner, Kurt, “A New Look at Browning’s ‘Evelyn Hope’?”, *Shiron*, No. 44, 2008年3月。

Saigusa, Kazuhiko, “Golding’s *Pincher Martin*: Rendering of the Techniques for Satire”, *Shiron*, No. 44, 2008年3月。

新井英永『D.H.ロレンスと批評理論—後期小説の再評価』(国書刊行会), ISBN: 4336050198, 2008年6月。

Sugimura, Yasunori, *The Void and the Metaphors: A New Reading of William Golding’s Fiction* (Oxford: Peter Lang, 2008), ISBN: 978-3-03911-528-0, 2008年8月。

Nambu, Akiko, “Teachers’ Perceptions and Team-Teaching,” *JALT 2007 Conference Proceedings*, Ed. K. Bradford-Watts, T. Muller, and M. Swanson, JALT, 2008.

Yoshida, Naoki, “The Power of Imagination in the Eighteenth-Century Coffeehouse,” 『言語センター広報 Language Studies』17号, 37-47, 2009年1月。

佐藤徹秀「『テレパシー』描写に見られる Stephen King の創作態度—*The Tommyknockers* を中心に—」, 『川内レビュー』第8号, 49-63, 2009年3月。

Nambu, Akiko, “Teachers’ Roles in Team-Teaching in Upper Secondary Schools in Japan,” *IATEFL 2008: Exeter Conference Selections*, Ed. B. Briony. IATEFL, 2009.

福士航「入門ブックガイド—王政復古演劇を楽しみたい、学びたい人のために—」, 『イギリス王政復古演劇案内』, 松柏社, 217-28, 2009年9月。

鈴木淳「魔女は溺死するか?—『帰郷』を政治的視点から再読する—」, 『ハーディ研究』(日本ハーディ協会) No. 35, 2009年9月。

- 鈴木淳 「ニューウーマン小説の空白と崩れる「帝国の母」神話—エジャトン、グランド、ハーディー」『日本英文学会第 81 回大会 Proceedings』（日本英文学）2009 年 9 月.
- 鈴木淳 「「慰めのないエレジー」—ハーディの Poems of 1912-13 再考—」『東北工業大学紀要』II（人文社会科学編）、第 30 号、2010 年 3 月.
- 鈴木淳 「崩れる「帝国の母」神話—ニューウーマン作家とハーディー」『ハーディ研究』（日本ハーディ協会）第 36 号、2010 年 9 月.
- 鈴木淳 「後期イギリス帝国主義はスコットランドを文明化できるか—*The Frozen Deep* における「千里眼」—」『日本英文学会第 82 回大会 Proceedings』（日本英文学会）2010 年 10 月.
- 小嶺智枝 “Representation of Shakespeare’s Women without the Battle of the Sexes,” 『武蔵野大学文学部研究紀要』第 11 号、2010 年 3 月.
- 小嶺智枝 “The Dramatic Roles of Supporting Women in Shakespeare’s Plays,” 『武蔵野大学英米文学』第 42 巻 2010 年 3 月.
- 小嶺智枝 “Early Modern English Controversy - The pamphlet wars in early modern England,” 『武蔵野大学英米文学』第 43 巻 2011 年 3 月.

## (2) 口頭発表

- 南部彰子 「イザベルのアイデンティティと風景式庭園—『ある婦人の肖像』の〈閉ざされた庭〉と〈開かれた庭〉」, 日本英文学会第 49 回大会, 2007 年 5 月 19 日 .
- Nambu, Akiko, ‘Teachers’ Perception and Team-Teaching in Upper Secondary Schools in Japan’, The 41st International IATEFL Conference and Exhibition, 20 April 2007.
- Nambu, Akiko, ‘Teachers’ Perception and Team-Teaching’, JALT 2007: The Japan Association for Language Teaching 33rd International conference, 23 November 2007.
- 三枝和彦 「*Brideshead Revisited* に描かれる父から息子への教育の欠如と価値観の断絶」, 東北英文学会第 62 回大会, 2007 年 11 月 17 日 .
- 長田拓也 「*The Conjure Woman*: アンクル・チェスナットの “Conjure”」, 東北英文学会第 62 回大会, 2007 年 11 月 17 日 .
- 武蔵一弘 「『ロード・ジム』—教育の失敗—」, 東北英文学会第 62 回大会, 2007

- 年 11 月 17 日 .
- 森山あゆみ「初期の Sylvia Plath 作品における語りの変貌」, 東北英文学会第 62 回大会, 2007 年 11 月 17 日 .
- Lu Dai, “‘Highest Duty, Highest Dignity’: Guinevere and the Role of Women in Tennyson’s *Idylls of the King*” 東北英文学会第 62 回大会, 2007 年 11 月 17 日 .
- 駒込清太郎「カズオ・イシグロ作品における記憶—過去の改ざんと省略—」, 東北英文学会第 61 回大会, 2007 年 11 月 17 日 .
- Nambu, Akiko, “Teachers’ roles in team-teaching in upper secondary schools in Japan,” 42nd Annual International IATEFL Conference and Exhibition, April, 2008.
- 長田拓也「The Mississippian: 南部人としての Basil Ransom」日本アメリカ文学会東北支部 4 月例会, 2008 年 4 月 19 日 .
- Nambu, Akiko, “Gardens and Identity,” *Bodies and Things: Victorian Literature and the Matter of Culture*, September, 2008.
- 佐藤徹秀「『テレパシー』の描写に見られる作家の態度: Stephen King による SF 小説の重要性、*The Tommyknockers* を中心に」東北英文学会第 63 回大会 2008 年 11 月 24 日 .
- 福士航「見える感情、見えない女—Thomas Southerne, Oroonoko のドラマツルギー—」, 17 世紀英文学会東北支部 2008 年度第 3 回例会, 2009 年 3 月 .
- 鈴木淳「ニューウーマン小説の空白と崩れる『帝国の母』神話—エジャトン、グランド、ハーディー—」, 日本英文学会第 81 回全国大会, 2009 年 5 月 31 日 .
- Nambu, Akiko, “Teachers’ perceptions of team-teaching,” Annual Staff Student Research Conference 2009 School of Education and Lifelong Learning, University of Education, May, 2009.
- 南部彰子 “Teachers’ perceptions of team-teaching and its training,” 44th Annual International IATEFL (International Association of Teachers of English as a Foreign Language) Conference and Exhibition, 2010 年 4 月 .
- 鈴木淳「後期イギリス帝国主義はスコットランドを文明化できるか—*The Frozen Deep* における千里眼—」, 日本英文学会第 82 回全国大会, 2010 年 5 月 30 日 .
- 小嶺智枝 “The Balance between Japanese teachers and ALTs in the Elementary School English Classes,” 2011 年度 JALT Conference, 2010 年 12 月 .

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

#### 4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

#### 5 留学・留学生受け入れ

##### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

08年度 大学院 計1名 エクセター大学(連合王国)

10年度 学部 計1名 カリフォルニア大学デイヴィス校(アメリカ合衆国)

11年度 学部 なし

大学院 なし

##### 5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
07	0	0	0
08	1	0	1
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	1	0	1

#### 6 社会人大大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	1	1
08	1	0	1
09	1	3	4
10	0	0	0
11	0	0	0
計	2	4	6

#### 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

##### 7-1 専攻分野出身の研究者

鈴木 淳 東北工業大学 2009年度

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高等学校教員 15 名

出版社勤務 2 名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

『試論』（1958 年より年刊で刊行）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007 年度 東北英文学会（日本英文学会東北支部）事務局

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

2008 年度 東北英文学会（日本英文学会東北支部）事務局

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

2009 年度 グレッグ・クリンガム氏（バックネル大学）講演会

日本イェイツ協会第 45 回大会開催

ジュディス・パスコー氏（アイオワ大学）講演会

2010 年度 トリスタン・コノリー氏（ウォータールー大学）講演会

クリストファー・ボード氏（ミュンヘン大学）講演会

2011 年度 日本英文学会東北支部事務局

ピーター・キトスン氏（ダンディー大学）講演会

## 12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2007 年度

大学院生読書会 月 1 回

小説を読む読書会 隔月 1 回

ポストコロナル研究会 月 1 回程度

2008 年度

大学院生読書会 月 1 回

小説を読む読書会 隔月 1 回

2009 年度

英詩の読書会（大学院生） 週 1 回

小説の読書会（大学院生） 隔月 1 回

2010 年度

英詩の読書会（大学院生） 週 1 回

小説の読書会（大学院生） 隔月 1 回

2011 年度

小説の読書会（大学院生） 隔月 1 回

### 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

#### [ 研究活動 ]

研究室としての研究活動の具体的な成果としては、学術誌『試論』の刊行が挙げられる。50 年を超える歴史をもつ査読付き学術雑誌として日本の英文学会でも高い評価を得ている『試論』は、「試論」英文学研究会が発行主体であり、英文学研究室が実質的活動拠点となっている。この学術誌は研究者に広く門戸を開放しており、とくに若手の研究者にとって研究成果発表のための重要な媒体となっている。

2009 年に原英一教授の後任として、イギリス・ロマン主義文学・18 世紀イギリス思想を専門とする大河内昌教授が着任した。岩田准教授はルネサンスから現代までのイギリス・アイルランド演劇を専門とし、論文発表・学会活動さらに翻訳等の多面的な活動で学界の注目を集め、将来を嘱望される若手研究者となっている。2005 年から 2008 年まで外国人講師をつとめ、そのフレッシュな感性と知性によって、新たな活力を与えたポール・グリトス講師の後任として、2008 年 4 月にイーアン・トゥィッディ准教授が着任した。前任者と同じく二十代の俊英であり、現代詩を専門としていた。残念ながら、トゥィッディ准教授は 2009 年 3 月に北海道大学に転出したが、2010 年度からはマイケル・ティンク准教授が着任した。ティンク氏は 17 世紀イギリス文学とイギリス・ルネサンス演劇を専門とする研究者であり、活発な研究活動と熱心な学生指導を行っている。

当専攻分野では、外部からの刺激を継続的に受けるために、毎年海外の専門家を招いて講演会を 1~2 回開催している。ミュンヘン大学のクリストフ・ボード博士をはじめとして、優れた研究者が講演のみならず、大学院生のためのセミナーを行ってきた。科学研究費補助金などの外部資金の導入もきわめて順調であり、全体的に見ると、研

究活動はきわめて活発であったと言える。

#### [ 教育活動 ]

大学院生の指導の下に英詩読解を行わせる「詩のオリエンテーション」が毎年実施されてきた。3～4つのグループに分かれての発表会は例年3時間を超える熱のこもった内容となっている。3年次学生にとっても、指導する立場である大学院生にとっても非常に高い教育効果をあげていると判断される。すでに40年以上の歴史をもつ卒業研究である「アサインメント」は、学生の読解力の養成という点で、大きな成果を上げている。年に1回実施される研修旅行では、外国人教師による講演、学会での研究発表リハーサル、詩のオリエンテーションなど、多様なプログラムにより、学生・院生が相互に切磋琢磨している。

大学院前期課程（修士課程）の学生の就職先としては、高等学校の英語教員が圧倒的に多くなった。今後は英語教師としての訓練も視野に入れた教育がますます必要とされることから、それに応じた教育体制と内容の整備が必要と考えている。大学院後期課程（博士課程）では、社会人研究者コースで入学する現役研究者が多くなった。これらの大学院生に対する教育体制は必ずしも十分であるとは言えない。今後は定期的な論文作成指導を実施するなどの対策が必要になると思われる。課程博士号授与件数は5年間で6名となった。2011年度においても授与が見込まれている。しかしながら、その多くが社会人研究者コースに入学した現役研究者であり、前期課程からの進学者が少数であることは、若手研究者の育成という点で問題であると認識している。

PD申請者についても十分な量の研究業績が必要とされるようになってきていると推定されるので、大学院生に対してはさらに積極的な論文発表を促したい。研究職に就職することができた大学院生は5年間で2名であるが、これは現在の超氷河期的な就職状況の中で見れば、かなりの好成績とも言える。

### 教員の研究活動（2007～2011年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

原 英一「都市ロマンス劇とディケンズの初期小説に関する超ジャンルの研究——平成17年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書——」, 2007年.

大河内 昌 「ロマン主義研究と批評理論」, 『英語青年』第153巻第1号、2-4, 2007年

- 大河内 昌 「シャフツベリーにおける美学と批評」, 『未分化の母体—十八世紀文学論集』千葉豊,能口盾彦,干井洋一編、英宝社、21-39, 2007 年
- 大河内 昌 「視覚表象における「リアル」の研究」—平成 16-18 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書」(阿部宏慈、中村三春、阿部茂樹、清塚邦彦、中村唯史と共著), 21- 38, 2008 年
- 大河内 昌 「崇高美学の楽しみ」, 『日本ジョンソン協会年報』第 32 号, 6-9, 2008 年
- 大河内 昌 「家庭小説とゴシック小説—オースティンはラドクリフの何を恐れたのか」, 『ジェイン・オースティン研究』第 2 号, 125-130, 2008 年
- 大河内 昌 「商業社会における「英雄的主題」—『序曲』におけるワーズワスの記憶術」, 『英文学研究』第 85 巻, 43-58, 2008 年
- 大河内 昌 「フランシス・ハチソンの道徳哲学における美学と立法」, 『文化』第 73 巻 3・4 号, 2010 年 3 月.
- 大河内昌、「『フランケンシュタイン』と言語的崇高」, 『英文学研究』第 88 巻、2011 年 11 月刊行予定.
- Iwata, Miki, “His Other Islands: Peter Robinson, Languages, Traditions.” Adam Piette and Katy Price eds., *The Salt Companion to Peter Robinson*. Cambridge: Salt Publishing, 193-206, 2007.
- Iwata, Miki, ‘Records and Recollections in *Krapp’s Last Tape*.’ *Journal of Irish Studies* 23 (2008), 1-10.
- Iwata, Miki, “The Stage-Irishman’s Stratagem: George Farquhar and the Emergence of the Smock Alley School,” *Studies in English Literature* 50 (2009), 25-43.
- 岩田 美喜 「*The Lady’s Tragedy* の家政学」, *Shakespeare News*, 49: 1, 2009, 9-17.
- 岩田 美喜 「『お人好し』における感受性の経済効率」, 『東北英文学研究』第 1 号 (『英文学研究支部統合号』第 3 号) (2011), 13-26 (99-112).
- Iwata, Miki, “‘I’ll go romancing’: The Composite Nature of Storytelling in *The Playboy of the Western World*,” *Studies in English Literature* 52 (2011), 17-34.
- Tink, James, “Globalization and Literature: Reading Yoko Tawada,” *Hikaku Bunka*, 54 (2008): 17-20.
- Tink, James, “The Place of Shakespeare: Shakespearean Performance and Cultural Production in Contemporary Britain.” *Essays and Studies* (Tokyo Woman’s Christian University), Vol. 56, 2010.
- Vlitos, Paul, “Conrad’s Gastronomy: Dining in ‘Falk’ ,” *Shiron*, No. 44, 2008.

三枝 和彦「『道化踊り』における建築と父子相克の物語—ハクスリーの年長者世代への躊躇いがちな抗議—」『テキスト研究』第5号, 4-19, 2009.

市橋 孝道「『ヴァージニアの人々』にみるイングリッシュネス “ジャーマニズム”との対照において」『英米文学の可能性 玉井暲教授退官記念論文集』(英宝社), 413-423, 2010.

## 1-2 著書・編著

原 英一, 西條隆雄他(編著)『ディケンズ鑑賞大事典』, 南雲堂, 2007.

岩田美喜・竹内拓史(編)『ポストコロニアル批評の諸相』, 東北大学出版会, 2008.

下楠昌哉(監修), 岩田美喜他(編)『イギリス文化入門』, 三修社, 2010.

Vlitos, Paul, *Welcome to the Working Week* (Orion), 2007.

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

### (1) 翻訳

原 英一, 抄訳 チャールズ・ディケンズ『ボズのスケッチ集』, 『川内レヴュー: 英語文化比較研究』第6号, 138-61, 2007.

岩田 美喜, 翻訳 シェイマス・ヒーニー「清算」, 阿部公彦・編『しみじみ読むイギリス・アイルランド文学』(研究社), 61-73, 2007.

岩田 美喜, 翻訳 アリ・スミス「五月」, 阿部公彦・編『しみじみ読むイギリス・アイルランド文学』(研究社), 179-202, 2007.

### (2) 書評

原 英一, 樋口欣三『ウォルター・スコットの歴史小説—スコットランドの歴史・伝承・物語』(英宝社, 2006年), 『英文学研究』2008年和文号, 2008.

大河内 昌, James Treadwell, *Autobiographical Writing and British Literature 1783-1834* (Oxford: Oxford UP, 2005), *Studies in English Literature* (Tokyo), No. 50, 2009.

岩田 美喜, 杉山寿美子『アベイ・シアター1904-2004』(研究社, 2004年). 『英文学研究』和文号第83巻, 168-171, 2007.

岩田 美喜, David Holdeman, *The Cambridge Companion to W. B. Yeats* (Cambridge: Cambridge UP, 2006) 『イエイツ研究』, 第38号, 135-37, 2007.

岩田 美喜, Thomas Middleton, *The Collected Works of Thomas Middleton*, gen. eds.,

Gary Taylor and John Lavagnino (OUP, 2007) 『関西シェイクスピア協会会報』 第三十号, 2009. 7.

岩田 美喜, 風呂本武敏編『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』(世界思想社, 2009年) [Toshi Furomoto, ed., *For Those Who Study Irish/Celtic Culture*, Sekai-Shiso-Sha, 2009] *Journal of Irish Studies* 25 (2010) .

岩田 美喜, Thomas M. Curley, *Samuel Johnson, the Ossian Fraud, and the Celtic Revival in Great Britain and Ireland* (Cambridge UP, 2009) 『日本ジョンソン協会年報』, 第35号, 2011年.

### (3) 解説

原 英一、「善の弱さ、アクの強さ」、『英語青年』2007年6月号、2007.

原 英一、「小説家漱石、その語りの原点—ホガース、ドラローシュ、ミレイ」、『英語青年』2008年9月号、2008

岩田 美喜、「飲みものとイギリス文学」、千種眞一・編『食に見る世界の文化』(東北大学出版会), 2007. 119-58.

岩田 美喜、「ミッシング・リンクとしてのメロドラマ—ロマン主義時代の演劇」、『英語青年』1901号, 2007. 209-11.

岩田 美喜、「『煉獄』における〈詩〉と〈主題〉の形成過程について」、『イエイツ研究』, 第38号, 2007. 120-21.

岩田 美喜、「王政復古演劇 必読の17本」のうち『当世伊達男』と『ヴァーチュオーソ』, 喜志哲雄・監修『イギリス王政復古演劇案内』, 松柏社, 2009. 147-58.

岩田 美喜、「誰が殺した、デズデモーナを?」, 正村俊之・編『生と死への問い』(人文社会科学講演シリーズV), 東北大学出版会, 2011. 103-35.

### (4) 辞典項目

Iwata, Miki, 'First performance of *A Paulownia Leaf*, 'In the Grove', and 'Fires on the Plain', *The Little Black Book of Books: A Century of the Greatest Books, Writers, Characters, Passages and Events that Rocked the Literary World*, Lucy Daniel, ed. (London: Cassell Illustrated), 2007.

## 1-4 口頭発表

### (1) 国際学会

Iwata, Miki, 'Records and Recollections in *Krapp's Last Tape*', IASIL JAPAN: The 24th

International Conference, Kyoto, 2007.

Iwata, Miki, 'Magnificent Seven Shakespeares: Inventing Shakespeare's Biography as Manga', Taiwan National University, Taipei, 25 November 2011.

Twiddy, Iain, 'Pastoral and Aftermath in Seamus Heaney's *Electric Light*', Chinese University of Hong Kong, 23 March 2007.

## (2) 国内学会

原 英一、日本シェイクスピア協会第 46 回大会セミナー「ミドルトン—マナー・セックス・ゲームの劇空間」, 2007.

大河内 昌 「ピクチャレスクの主体—18 世紀の風景美学とゴシック小説の空間表象」(日本英文学会第 79 回大会シンポジウム「空間表現の英文学—「旅立ち」と「到着」の謎(エニグマ)」) 2007 年.

大河内 昌 「18 世紀小説における想像力と財産」(日本オースティン協会第 1 回大会シンポジウム「世紀が変わる、小説が変わる」) 2007 年.

大河内昌 テクスト研究学会第 9 回大会シンポジウム「エドワード・サイドをめぐって」, 2009 年.

岩田 美喜 日本シェイクスピア協会第 46 回大会セミナー「ミドルトン—マナー・セックス・ゲームの劇空間」, 2007 年.

岩田 美喜 日本イェイツ協会第 44 回大会ワークショップ「*The Unicorn from the Stars* をめぐって」, 2008 年.

岩田 美喜 「フランス帰りのティエグ 18 世紀演劇におけるステージ・アイリッシュマン表象—」(第 63 回東北英文学会シンポジウム「英国演劇研究の空白」), 2008 年.

岩田 美喜 「『西国の伊達男』における語りによるこび」(第 81 回日本英文学会シンポジウム「コモン・リーダーは復権できるか——文芸批評と作品論」), 2009 年.

岩田 美喜 「『スペインの悲劇』における女性表象と 終わり の感覚」(日本シェイクスピア協会第 48 回年次大会口頭発表), 2009 年 10 月 3 日.

岩田 美喜 「『谷間の蔭』のジェンダー・ポリティックス」(日本イェイツ協会第 46 回大会口頭発表), 2010 年 9 月 25 日.

岩田 美喜 「シェリダン演劇のスペクタクル性」(日本英文学会第 83 回大会シンポジウム第一部門), 2011 年 5 月 21 日.

三枝 和彦 「ハクスリーのためらい—建築の表象における価値観の模索」, テク

スト研究学会第8回大会, 2008年8月29日.

三枝 和彦「同情を欠いた空間——『一握の砂』におけるコミュニケーションのあり方と情感」, 東北英文学会 / 日本英文学会東北支部第64回年次大会口頭発表, 2009年12月5日.

市橋 孝道「*The Virginians* にみるEnglishness - “Germanism” との対照において」, 日本英文学会第80回全国大会, 2008年5月25日.

市橋 孝道「*Vanity Fair*と*Bleak House*—Exhibition Cultureへの批判的パロディーとして」日本英文学会関西支部第5回大会, 2010年12月18日.

## 2 教員の受賞歴 (2007~2011年度)

岩田美喜、平成22年度 青葉文学賞 (青葉文学賞委員会)、対象論文: “The Stage-Irishman’s Stratagem: George Farquhar and the Emergence of the Smock Alley School,” *Studies in English Literature* 50 (2009).

岩田美喜、平成23年度 東北英文学ベストエッセイ賞 (日本英文学会東北支部)、対象論文: 「『お人好し』における感受性の経済効率」『東北英文学研究』第1号、2011年1月.

大河内昌、平成23年度 日本英文学会優秀論文賞 (日本英文学会)、対象論文: 「『フランケンシュタイン』と言語的崇高」『英文学研究』第88巻、2011年11月刊行予定.

## 教員による競争的資金獲得 (2007~2011年度)

### (1) 科学研究費補助金

平成18-20年 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 「十八世紀イギリスにおける美学イデオロギーの研究」大河内 昌 (研究代表者) 2,590,000円 (3年間総額)

平成19-20年度 科学研究費補助金「17・18世紀都市口マンズ文学とその精神史に関する史的研究」原英一 (研究代表者)、4,006,000円 (2年間総額、内平成19年度間接経費540,000円)

平成19-21年 科学研究費補助金「若手研究B」岩田美喜 (研究代表者) 「近代英語演劇におけるステージ・アイリッシュマン表象の政治・文化史的研究」, 3,300,000円 (3年間総額)

平成22-24年 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 「感傷主義の射程」大河内 昌

(研究代表者) 2,590,000 円(3年間総額)  
平成 22 年-25 年科学研究費補助金「基盤研究(C)」 「18 世紀演劇の非標準英語使用を通じた他者表象の文化研究」岩田 美喜(研究代表者) 3,300,000 円(4 年間総額)

## (2) その他

なし

### 教員による社会貢献(2007~2011 年度)

原 英一

公開講演(「夏目金之助先生の英文学」仙台文学館文学サロン「東北大学創立 100 周年記念特別展 学都に息づく夏目漱石の精神 仙台の「漱石文庫」から」)(2008 年)

公開講座(みやぎ県民大学)(2008 年)

大河内昌

高校出張講義(山形県立米沢興譲館高等学校)(2007 年)

高校出張講義(宮城県立古川高等学校)(2007 年)

高校出張講義(福島県立葵高等学校)(2008 年)

高校出張講義(山形県立山形北高等学校)(2008 年)

高校出張講義(宮城県立二華高等学校)(2010 年)

高校出張講義(福島県立安積高等学校)(2011 年)

岩田美喜

高校出張授業(山形県立南陽高等学校)(2007 年)

公開講座(文学サロン)(2007 年)

公開講座(みやぎ県民大学)(2008 年)

公開講座(みやぎ県民大学)(2009 年)

### 教員による学会役員等の引き受け状況(2007~2011 年度)

大河内 昌

日本英文学会評議員(2009 年度~2010 年度)

日本英文学学会理事(2011 年度~)

日本英文学会大会準備委員会副委員長(2010 年度)

日本英文学会大会準備委員会委員長(2011 年度)

日本英文学会東北支部 支部長（2011年度～）  
イギリス・ロマン派学会理事（2005年度～）  
イギリス・ロマン派学会企画運営委員（2010年度～）  
日本ジョンソン協会事務局（2008年度～2009年度）

岩田 美喜

東北英文学会事務局（2003年度～2008年度）  
日本イエイツ協会役員（2007年度～）  
日本イエイツ協会編集委員（2011年度～）  
日本英文学会東北支部事務局長（2011年度～）

## 教員の教育活動

### （1）学内授業担当（2011年度）

#### 1 大学院授業担当

大河内 昌 教授

1 学期 英文学特論 I 批評理論(1)  
2 学期 英文学特論 II 批評理論(2)  
通年 課題研究（英文学）（岩田准教授・ティンク准教授と共同）

岩田美喜 准教授

1 学期 英語文化論特論 I E. M. Forster, *A Passage to India* を読む  
2 学期 英語文化論特論 II Oscar Wilde の喜劇を読む  
通年 課題研究（英文学）（大河内教授・ティンク准教授と共同）

ジェイムズ・ティンク准教授

1 学期 英文学研究演習 I Fiction, History and Ethics in the Contemporary  
British Novel: Ian McEwan's, *Atonement*.  
1 学期 英文学研究演習 III English Poetry and Modernism 1890-1940.  
2 学期 英文学研究演習 II Academic Writing Skills Part One  
2 学期 英文学研究演習 IV Academic Writing Skills Part Two  
通年 課題研究（英文学）（大河内教授・岩田准教授と共同）

武田将明 講師（非常勤講師・東京大学）

集中（2）英文学特論 III 近代小説を考えるためのいくつかの仮説：18世紀  
イギリス小説を中心に

#### 2 学部授業担当

大河内 昌 教授

- 3 セメスター 英文学概論 I□英詩入門 (1)
- 4 セメスター 英文学概論 II□英詩入門 (2)
- 5 セメスター 英文学演習 I Thomas Hardy, *Tess of the D'Urbervilles* を読む(1)
- 6 セメスター 英文学演習 II Thomas Hardy, *Tess of the D'Urbervilles* を読む(2)
- 5 セメスター 英語文化論各論□William Wordsworth とフランス革命 (1)
- 6 セメスター 英語文化論各論□William Wordsworth とフランス革命 (2)

岩田美喜 准教授

- 3 セメスター 英文学基礎講読 原文で読むイギリス小説
- 4 セメスター 英文学基礎講読 原文で読むイギリス戯曲
- 5 セメスター 英文学各論 Shakespeare, *Romeo and Juliet* を読む
- 6 セメスター 英文学各論 現代イギリス短編小説を読む

ジェイムズ・ティンク 准教授

- 3 セメスター 英文学・英語学基礎講読 The Short Story in British Literature
- 4 セメスター 英文学・英語学基礎講読 William Shakespeare, *The Tempest*
- 5 セメスター 英文学演習 III Introduction to Geoffrey Chaucer's *The Canterbury Tales*
- 6 セメスター 英文学講読 John Webster, *The Duchess of Malfi*: Power, Corruption and Revenge in Seventeenth Century Drama

武田将明 講師（非常勤講師・東京大学）

- 集中(2) 英文学各論 近代小説を考えるためのいくつかの仮説：18世紀イギリス小説を中心に

### 3 共通科目・全学科目授業担当

ジェイムズ・ティンク 准教授

全学共通科目

- 3 セメスター 英語 C
- 4 セメスター 英語 C

( 2 ) 他大学への出講 ( 2007 ~ 2011 年度 )

原 英一 教授

東北学院大学・文学部・文学研究科 ( 2007 年度 )

東北学院大学・文学部・文学研究科 ( 2008 年度 )

大河内昌 教授

大阪大学文学部・文学研究科 ( 2010 年度 )

岩田美喜 准教授

東北学院大学・文学部 ( 2007 年度 )

東北学院大学・文学部 ( 2008 年度 )

岩手大学・教育学部 ( 2008 年度 )

東北学院大学・文学部 ( 2009 年度 )

東北学院大学・文学部 ( 2010 年度 )

東北学院大学・文学部 ( 2011 年度 )

放送大学 ( 2011 年度 )

大阪大学・文学部 / 文学研究科 ( 2011 年度 )